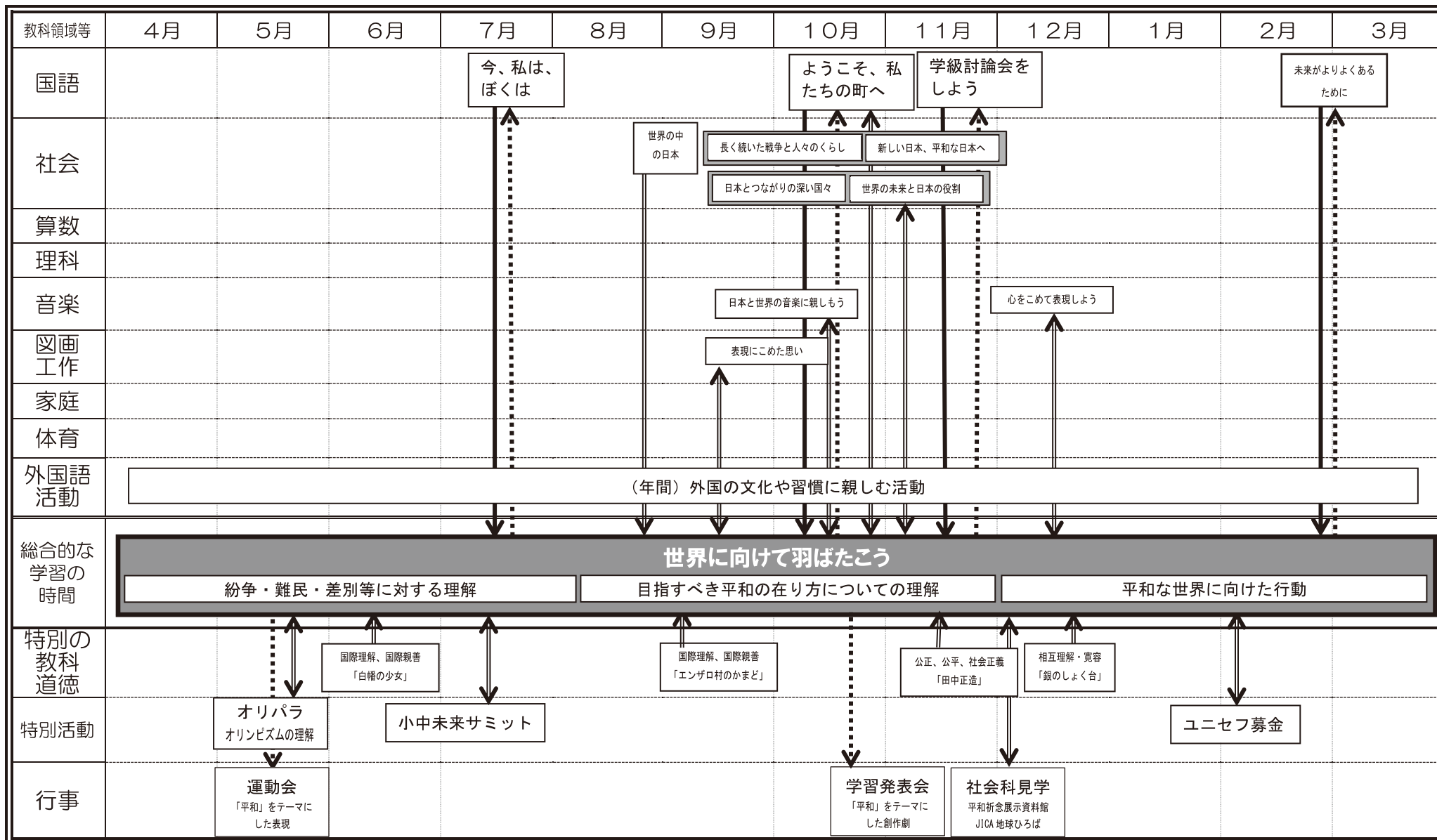


## 第6学年 ESDカレンダー



問題解決の質を高める ——— よりよく価値観を広げる ——— 各教科等の学びの質を高める .....

## 第 6 学年

総合的な学習の時間

# 世界に向けて羽ばたこう

## 単元目標

- 地球規模の課題（紛争、難民、差別等）に関心をもち、その状況、原因等を調べ、情報を関連付けて整理したり分析したりすることを通して、物事を総合的に捉える力を育てる。
- 世界の国々の文化や日本との結び付き、歴史、平和活動等を調べることを通して、目指すべき平和の在り方を多面的に捉えることができる。
- 社会の一員として、平和な社会に向けた活動に取り組むことを通して、持続可能な社会の実現に向けて問題を解決していく行動力を育てる。

## 児童の実態

### ①価値観について

児童は、「平和」のイメージについて、飢餓状態でない（18 名）、健康で、安心して満足に暮らせる（21 名）、安全に暮らせる（22 名）、戦争などが無い（29 名）といった項目で捉えている。しかし、教育を受けられる（2 名）、貧困でない（1 名）、適切な良い仕事がある（4 名）、国際協力（1 名）といった、平和の視点に直接つながらないものもある。また、それぞれの視点について関連付けて考えている児童は 2 名で、その他の児童は個別に思い付くままに書いており、紛争、難民、差別などの問題の原因や因果関係等についての理解は不十分である。この他に、自身の周りの「平和」として、楽しい・笑顔（16 名）、協力（10 名）、仲良し（10 名）、いじめがない（6 名）などが挙げられた。持続的な平和な社会を目指すに当たり、紛争が起こる原因や影響を捉え、平和な社会の構築に向けて必要なことを理解し、自ら平和な社会の実現に向けて関わっていこうという姿勢を引き出していきたい。

### ②「気付き」について

第 5 学年では、持続可能な社会の実現に向けて、「環境」という側面から迫った。環境問題による影響、原因、対策等を調べ、環境問題の全体像を総合的に捉えることで、その後の行動につなげることができた。これらの学習経験から、「世界の子供たちの暮らし（ユニセフ）」の写真を見た際には、「なぜ、このような状況になっているのか。」「なぜ、戦争が起きたのか。」などの原因を探ろうとする疑問が出てきた。これらを土台として、本時では、世界で起こっている問題を象徴する 4 枚の写真を用い、これらはほんの一部分を切り取っただけであることに気付かせ、「平和」という視点で社会状況を捉え、追究すべき問いをもつ姿を引き出したい。

## 単元観

本単元では、SDGs の 17 の目標に関連させて、平和という側面から持続可能な社会の創造を目指す資質・能力の育成を目指していく。第 1 次では、地球に起こっている紛争、難民、差別等の問題に関心をもち、資料を調べたり、ユネスコや UNHCR（国連難民高等弁務官）などの外部人材から、世界で平和活動を行っている話を聞いたりすることで、平和な社会を実現する難しさについて理解を深めていく。また、調べたことを関連付けたり、様々な平和の問題の根源を探ったりすることを通して、紛争、難民、差別等の問題の全体像を総合的に捉えられるようにする。

平成 30 年 5 月 9 日（水） 第 5 校時

杉並区立西田小学校 第 6 学年 2 組 33 名

授業者／古谷野 弘美

第 2 次では、「目指すべき平和の在り方」について、社会の「世界の中の日本」などと関連させ、外国との関係で大切にすべきことや、日本が戦後どのように平和を築いてきたのか等を捉え、よりよく平和についての価値観を広げることができるようにする。また、国語の「学級討論会をしよう」の中で、平和に向けた行動の方向性について考えを深めていく。

第 3 次では、第 2 次で見いだした平和に関する価値観を指針として、「平和な社会の実現に向けた自身の関わり方」を考え、行動する。その際、国語の「未来がよりよくあるために」と関連させ、「世界をどんな未来にしていきたいか」ということについて、自分なりの意見を持ち、それを行動に反映させられるようにする。

このように、問題解決の過程を 3 回繰り返す中で、平和についての価値観を広げていくとともに、問題解決の仕方を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、自らの役割を自覚し、行動する力を育んでいきたい。

## 評価規準（ESD の観点から）

学習過程	観点	評価規準			
		①紛争・難民・差別等に対する理解	②目指すべき平和の在り方についての理解		③平和な世界に向けた行動
課題の設定	身の回りの事象に興味・関心をもつ力	1 「平和」という観点で、身の回りの事象を見つめることができる。 2 「世界の子供たちの暮らし」の写真を通して、人々の暮らしを想像し、興味・関心をもつことができる。	10 国際社会が抱える問題の解決に向け、必要なことを考える。		24 平和な社会の実現に向け、自分たちの関わり方について考える。
	課題を見付ける力	3 「平和な社会」を築くために、どんなことを追究していくべきか、また、追究していくべき問いの順を考える。	10 国際社会が抱える問題の解決に向け、必要なことを考える。		24 平和な社会の実現に向け、自分たちの関わり方について考える。
	課題解決のための計画を立てる力	4 世界で起こる反平和の状況を捉えるために、調べるべきことを挙げ、学習計画を立てることができる。	11 平和な社会の実現に向けて、調べるべきことを挙げ、学習計画を立てることができる。		25 持続的な平和という目標に向けて、情報の収集、整理・分析、行動という問題解決の過程を踏まえた活動計画を立てることができる。
情報の収集	目的に応じて情報を収集する力	5 世界で起こっている紛争・難民・差別等の問題とその影響、原因等を資料、本、年鑑、新聞記事等を用いたり、ゲストティーチャーの話を聞いたりして調べることができる。 6 平和の必要性を願う人々に思いを巡らせ、共感することができる。	12 世界の国々の文化や生活の様子について資料等を活用して、調べることができる。 13 調べたことを交流することを通して、世界は多文化社会であることを捉えることができる。	15 平和祈念展示資料館の見学を通して、戦争が与える影響を調べることができる。 16 戦争体験者の話を聞いて、戦争の悲惨さに思いを巡らせ、共感することができる。	18 JICA 地球ひろばの見学を通して、平和に向けた活動や活動する人の願いや苦労を調べることができる。 21 戦後、日本がどのようにして平和を取り戻したのかを調べることができる。
		7 世界で起こっている紛争・難民・差別等の問題とその影響、原因について、因果関係を整理し、問題の根源を探ることができる。 8 調べた問題を関連付け、世界で起こっている紛争・難民・差別等の問題が起こる根源を総合的に捉えることができる。	12 世界の国々の文化や生活の様子について資料等を活用して、調べることができる。 13 調べたことを交流することを通して、世界は多文化社会であることを捉えることができる。	15 平和祈念展示資料館の見学を通して、戦争が与える影響を調べることができる。 16 戦争体験者の話を聞いて、戦争の悲惨さに思いを巡らせ、共感することができる。	21 戦後、日本がどのようにして平和を取り戻したのかを調べることができる。
情報の整理・分析	情報を整理・分析する力	7 世界で起こっている紛争・難民・差別等の問題とその影響、原因について、因果関係を整理し、問題の根源を探ることができる。 8 調べた問題を関連付け、世界で起こっている紛争・難民・差別等の問題が起こる根源を総合的に捉えることができる。	12 世界の国々の文化や生活の様子について資料等を活用して、調べることができる。 13 調べたことを交流することを通して、世界は多文化社会であることを捉えることができる。	15 平和祈念展示資料館の見学を通して、戦争が与える影響を調べることができる。 16 戦争体験者の話を聞いて、戦争の悲惨さに思いを巡らせ、共感することができる。	21 戦後、日本がどのようにして平和を取り戻したのかを調べることができる。
行動	課題解決のために行動する力				30/31 持続的な平和のために、各自が考えた取り組みを実行するための準備をし、行動したりすることができる。
まとめ表現	分かりやすくまとめ、表現する力	9 調べた反平和の状況を基に、「平和」について、自分の考えをまとめることができる。	14 外国との関係で大切にすべきことについて、自分の考えをまとめることができる。	17 戦争中の日本の様子を基に、平和について考えたことをまとめることができる。	22 これからの日本が目指すべき方向性について、自分の考えをまとめることができる。
			23 14、17、20、22 でまとめたことや国語の学級討論会を振り返り、平和な世界の実現に向けた行動の方針について、自分の考えをまとめることができる。		32 持続的な平和のための取組の成果と課題をまとめ、発表することができる。 33 これまでの学習を振り返り、問題解決の仕方の成果と課題をまとめることができる。

## 第 6 学年

総合的な学習の時間

## 世界に向けて羽ばたこう 単元計画

&lt;外部人材・地域資源等&gt;・ワールド・ビジョン・ジャパン

・杉並ユネスコ協会・UNHCR・企業

・ユニセフ・平和祈念展示資料館・JICA

紛争・難民・差別等に対する理解

## 課題設定

- 学習活動 1:** 平和のイメージを描く。(1 時間)
- 学習活動 2:** 「ユニセフ～のぞいてみよう、世界の子供たちの暮らし～」を見て、疑問を出し合い、どのような暮らしをしているのか想像する。(2 時間)
- 学習活動 3・4:** 平和な社会に向けて追究すべき問いを見だし、学習課題・学習計画を立てる。(1 時間)

・世界にはどんな平和問題があるのか。また、その背景は何か。  
・平和に向けて、社会はどのような取り組みをしているのだろうか。  
・平和な社会の実現に向けて、自分たちができることはないだろうか。

## 情報の収集

- 学習活動 5:** 世界で起こっている紛争・難民・差別等の問題とその影響、原因について調べる。  
(1) 資料、本、年鑑、新聞記事等を用いて調べる。(3 時間)  
(2) 「世界の紛争地の状況」【協力: 杉並ユネスコ協会】(2 時間)  
(3) 「世界の子供たちの現状」【協力: ユニセフ】(2 時間)  
(4) 「届けよう! 服のチカラプロジェクト」【協力: 企業】(2 時間)  
・難民問題について  
(5) 「世界の子供の問題」【協力: ワールド・ビジョン・ジャパン】(2 時間)
- 学習活動 6:** 平和の必要性を願う人々の思いを想像する。(4 時間)  
◇国語「今、私は、ぼくは」

## 情報の整理・分析

- 学習活動 7:** 世界で起こっている紛争・難民・差別等の問題とその影響、原因について因果関係を整理し、問題の根源を分析する。(5 時間)
- 学習活動 8:** 調べた問題を関連付け、世界で起こっている紛争・難民・差別等の問題が起こる根源を総合的に捉える。(2 時間)

・紛争の原因は、社会への不安、不満、貧困、不平等、格差などで、紛争により更にそれらが引き起こされる。

## まとめ・表現

- 学習活動 9:** 調べたことを基に、「平和」とは、どのような状態のことか話し合い、まとめる。(1 時間)

## ※夏休み自由課題

- ・戦争や平和に関する本を読み、感想文を書く。  
・戦争や平和に関する資料館等を見学する。  
・戦争や平和に関する映画やテレビ番組を視聴する。

## 課題設定

## 社会「世界の中の日本」

- 学習活動 10:** 国際社会が抱える問題(紛争・難民・差別等)の解決に向けた対策について話し合い、学習問題を立てる。(1 時間)

・私たちは、どのようにして、世界の人々と共に生き、平和な社会を築いていけばよいのだろう。

- 学習活動 11:** 平和な社会の実現に向けて、紛争・難民・差別等の問題が起こる根源を基に、学習計画を立てることができる。(1 時間)

## 情報の収集

## 社会「日本とつながりの深い国々」音楽「日本と世界の音楽に親しもう」図工「表現にこめた思い」

- ◇外国に関心をもち、日本とのつながりを考える。  
◇**学習活動 12:** 世界の国々の文化や生活の様子、日本との結び付きについて、調べる。(1 時間)
- ◇世界の国々の音楽(楽器)に親しむ。  
◇平和への願いが込められた作品の鑑賞をする。

## 社会「長く続いた戦争と人々の暮らし」

- ◇長く続いた戦争が日本や外国にどのような影響を与えたのか、学習問題を作る。  
◇日中戦争について調べる。  
◇日本の戦争がどのように世界に広がったのか調べる。  
◇戦争中の生活の様子を調べる。
- ◇空襲によりどのような被害を受けたのか調べる。  
**学習活動 15:** 平和祈念展示資料館の見学を通して、戦争による被害などを調べる。  
◇戦争による被害や戦場に与えた損害について調べる。  
**学習活動 16:** 戦争体験者の方から被爆体験について話を聞く。【協力: 杉並ユネスコ協会】

## 社会「世界の未来と日本の役割」

- ◇国際協力に関わる日本人の活動に関心をもち、学習問題を作る。  
◇国際連合の働きについて調べる。  
◇平和な世界の実現のために我が国が行っていることを調べる。
- ◇NGOや青年海外協力隊の活動の様子、願いや苦勞を調べる。  
**学習活動 18:** JICA 地球ひろばの見学を通して、ボランティアの活動などを調べる。  
**学習活動 19:** ユニセフの活動を知る。【協力: ユニセフ】  
◇文化やスポーツの分野で日本がどのような交流をしているかを調べる。

## 社会「新しい日本、平和な日本へ」

- ◇戦争が終わった後の社会の変化に関心をもち、学習問題を作る。  
◇**学習活動 21:** 戦争改革や日本国憲法の制定、日本の国際社会への復帰、産業の復興、東京リピックの開催などについて調べる。

## 情報の整理・分析

- 学習活動 13:** 調べたことを交流し、世界は多文化社会であることや考え方が多様であることを捉える。(1 時間)

- ◇満州事変から終戦までの出来事を年表に整理し、日本や外国にどのような影響を与えたのかを考える。

## まとめ・表現

- 学習活動 14:** 外国との関係で大切にすべきことを考える。(1 時間)

- 学習活動 17:** 戦争中の日本の様子を基に、平和について考える。(1 時間)

- 学習活動 20:** 世界の平和と発展のために大切なことを考える。(1 時間)

- 学習活動 22:** よりよい社会の在り方、日本が目指すべきことを考える。(1 時間)

- 学習活動 23:** 平和な社会の実現に向けた行動の仕方の方針をまとめる。(1 時間) 国語「学級討論会をしよう」

## 課題設定

- 学習活動 24:** 平和な社会の実現という目標に向けて、これまで調べてきたことを基に、個々に課題設定をする。(1 時間)
- 学習活動 25:** 課題解決のための活動計画を立てる。(1 時間)

## 情報の収集

- 学習活動 26・27:** 目標達成のために必要な情報を収集する。(8 時間)  
・実態調査  
・平和に関する取り組み

## 情報の整理・分析

- 学習活動 28:** 調査結果を整理・分析し、今後の活動について考える。(4 時間)
- 学習活動 29:** 各取り組みについて趣旨や目的について整理・分析し、今後の活動のヒントにする。(4 時間)

## 行動する

- 学習活動 30:** 平和な社会の実現という目標に向けて、各自が考えた取り組みを実行するための準備をする。(4 時間)
- 学習活動 31:** 平和な社会の実現という目標に向けて行動する。(4 時間)

## まとめ・表現

- 学習活動 32:** 平和な社会の実現へ向けた取り組みの成果と課題を振り返る。(1 時間)
- 学習活動 33:** 平和な社会の実現へ向けた問題解決の仕方の成果と課題を振り返る。(4 時間)

平和な世界に向けた行動

# 本時の授業デザイン（4 時間目 / 70 時間）

## 本時の目標

世界の子供の状況を見て、疑問に思ったことや予想したことを基に、学習課題を設定することができる。

## 評価規準と手だて

### 評価規準 課題を見付ける力

● 平和な社会の創造という視点で、世界の子供の状況を捉え、追究すべき課題を設定することができる。

**手だて1:** 平和な社会の創造という目標に対し、写真の状況はどうか感想を述べ合い、目標を達成するために何を追究していくとよいか考えさせる。

◎ 平和な社会の創造という目標に向け、追究すべき問いを見いだしている。

⇒ どのような順で追究していくとよいか、考えさせる。

○ 一つの写真に限定した問いを立てている。

⇒ 一つの国の平和も大切だが、地球全体の平和を目指すためには、何を追究していくとよいか考えるよう助言する。

△ 問いを見いだすことができない。

⇒ 5年生の時に持続可能な社会の実現に向けて、環境という側面からどんなことを追究したか、ファイルを見て振り返るよう助言する。

**手だて2:** 「振り返りの視点」を提示し、今日の学習は問題解決の過程のどの段階だったのか、児童自身に判断させる。また、「よくできた」「できた」「あまりできなかった」を選択させ、その理由を書かせる。

◎ 振り返りの視点②を選択している児童

⇒ 何に注目して、追究したい課題を見つけたかを明らかにさせる。また、見付けられなかった場合は、何に注目すべきだったかを振り返るよう助言する。

○ 振り返りの視点①を選択している児童

⇒ 疑問や感想をもったことから、何をグループで話し合ったか、振り返るよう助言する。また、どんな疑問や感想が課題につながったか、考えさせる。

○ 振り返りの視点⑤⑥を選択している児童

⇒ 調べたこと(疑問・予想)をどのように整理し、課題(考察)につなげたかを振り返るよう助言する。

△ 振り返りの視点で上記以外を選択している児童

⇒ 今日のめあては「学習課題を設定する」であったことを確認し、①②⑤⑥の中から選んで振り返りを書くよう助言する。

## 学習の流れ

### ① 導入

#### ◆ 全体で学習のめあてを確認する。

○ 世界の子供の状況を切り取った写真を見て出し合った疑問やそれについての予想を基に、学習課題を設定する。

### ② 展開

#### ◆ 平和な社会の創造という目標に向けて、追究すべき課題を話し合う。

○ 4つの国の子供の状況を見てどう感じたか、感想を述べ合う。

・ 家が爆弾で壊されるなんて、平和でない。

・ 栄養不良になってしまうほど、貧しいなんてつらいと思う。

・ 世界は、平和とは言えない。 など

○ 4つの写真の状況を振り返り、追究すべき課題をグループで話し合う。

・ 世界の子供たちは、どんな生活をしているのか。

・ なぜ、こんな暮らしをしているのか。

・ 周りの大人は、助けてくれないのか。

・ 国やオイスカのような団体は、何かしてくれていないのか。

○ グループで出し合った課題を基に、追究すべき課題を整理し、目標に向けた道筋を話し合う。

・ 平和に関する世界の現状の把握

・ 紛争、難民、差別等の原因

・ 紛争、難民、差別等への対策

・ 紛争、難民、差別等への国や人々の対応

・ 一人一人が平和な社会の創り手になるための対策



#### ◆ 課題を設定する。

・ 世界にはどんな平和問題があるのか。また、その背景は何か。

・ 平和に向けて、社会はどのような取り組みをしているのだろうか。

・ 一人一人が平和な社会の創り手になるためには、どうすればよいのか。

### ③ 終末

#### ◆ 今日の学習を振り返る。

○ 問題解決の学習過程のどの段階だったかを自分で選び、それについての振り返りを書く。